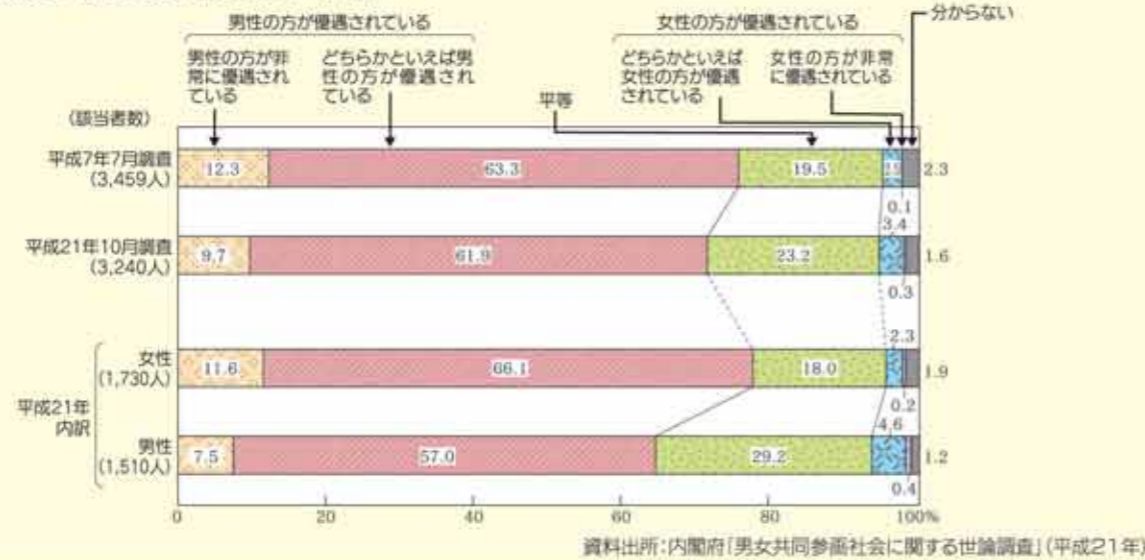


## II 男女共同参画の現状

男女共同参画の現状について世論調査の結果などから見てみましょう。

### 1 男女共同参画に関する意識等

#### ○社会全体における男女の地位の平等感



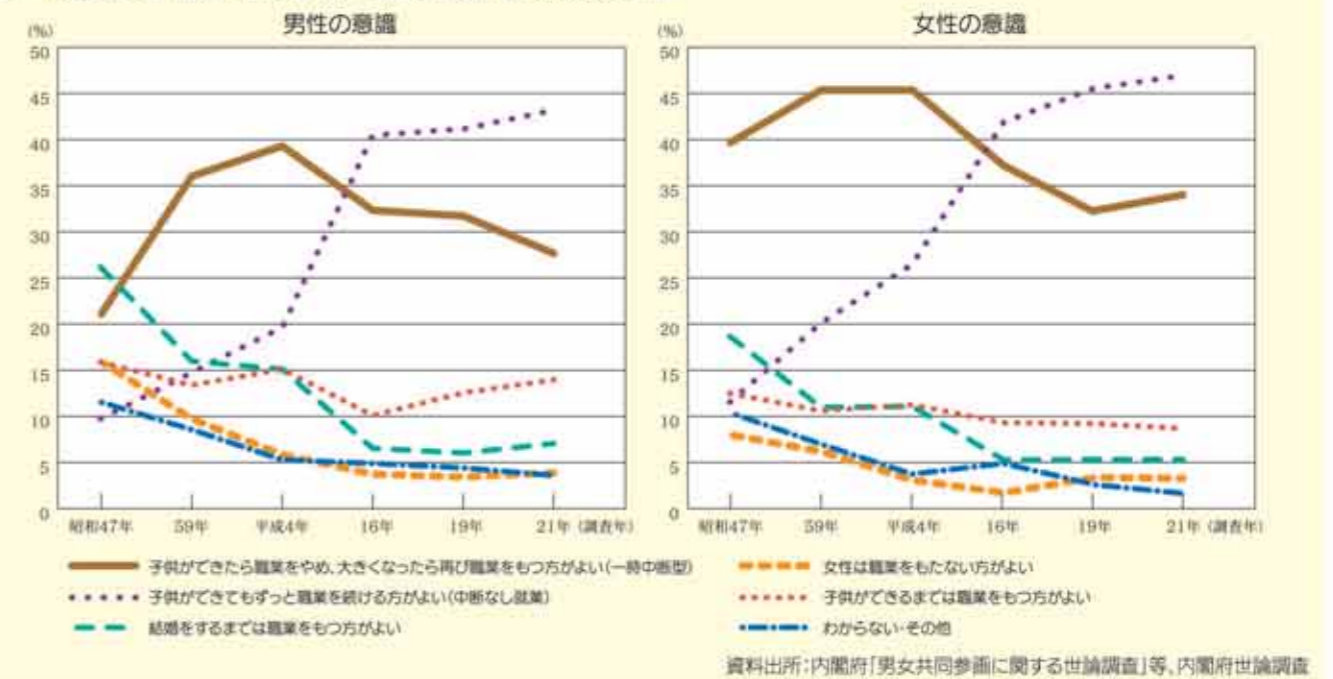
平成21年の調査では、社会全体で見た場合、男女の地位について約72%の人が「男性の方が優遇されている」と考えています。

#### ○固定的性別役割分担意識(夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである)



昭和54年の調査では、賛成の割合が7割を超えていましたが、平成19年の調査で反対(52.1%)が半数を超え、平成21年の調査でも反対(55.1%)が賛成(41.3%)を上回っています。また、性別に見ても、平成21年の調査で男性の反対(51.1%)が初めて半数を超えました。

#### ○一般的に女性が職業を持つことに対する意識変化



男女ともに女性の就業を肯定的にとらえる意識は着実に増加しており、「中断なし就業」と「一時中断型」とを合わせると7割以上の男性が、女性の就業に肯定的な考え方を持っています。また、平成16年からは、男女ともに「中断なし就業」を支持する人が最も多くなっています。

#### ○共働き等世帯数の推移(非農林業)



雇用者世帯の就業状況を見ると、昭和55年には、「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」数が「雇用者の共働き世帯」数を大きく上回っていましたが、年々その差は縮まり、平成9年以降は、「雇用者の共働き世帯」数が「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」数を上回っています。その背景として、女性の社会進出に対する意識変化や、経済情勢の変化などがあると考えられます。